

Śrauta 祭式における Vājapeya 祭の儀礼過程

伏 見 誠

ヴェーダ祭式を伝える Śrauta Sūtra (ŚS) 諸文献 (辻直四郎, 現存ヤジュル・ヴェーダ文献, 東洋文庫論叢 52, 1970, 東京, を参照) に記述される Vājapeya 祭 (VP.) に関するまとまった研究を最初に提出したのは A. Weber である (“Über den Vājapeya”, Sitzungsberichte der Königlich Preussischen Akademie der Wissenschaften zu Berlin 39, pp. 765-813, 1892, Berlin). Weber は, 主に白 Yajurveda の Vājasaneyi Saṃhitā, Śatapatha Brāhmaṇa, Kāty (āyana) ŚS に基づいて VP. を検討している。儀礼解釈の問題に関心の中心に置いた彼の研究ではマントラ要素の詳細な検討に大きな比重が置かれる一方で, 祭式過程の検討が十分にはされていない。この点に関してはその後の研究 (G.U. Thite, “A propos of the Vājapeya”, JUPHS, 29, pp. 31-39, 1968, Poona) においても進展がみられない。本論においては VP. のシュラウタ祭式としての発展史を探るために Yajurveda の ŚS の儀軌を比較検討する。関心の中心に置かれるのは VP. を特徴付ける三つの儀式

1. 戦車競争
2. 祭柱の儀式
3. 灌頂 (abhiṣeka)

の ŚS 内での位置である。

VP. は, Soma 祭の中で, ソーマ圧搾が一日行われる Ekāha に分類され, その基本型である Jyotiṣṭoma/Agniṣṭoma 祭 (Ag) の基本構造に従って記述が進められている。(以下の儀礼分析ではソーマ祭基本部分に関し, Caland et Henry, L’Agniṣṭoma, tome I-II, 1906-7, Paris, [CH. §] を援用する)。VP. に特徴的な上述の諸儀式は, 真昼のソーマ圧搾 (mādhyandinasavana) における mähendra-graha (mg. [CH. § 198-201]) において, 第一の prṣṭha-stotra (=mg.s [CH. § 199]), niṣkevalya-śastra (=mg.ś [CH. § 200]) の前後に実行される。VP. に特徴的な儀式が Ag の儀礼過程の枠組の中にどのような形で組み込まれているかを YV 古派の一つ Baudh (āyana) ŚS によって以下に示す。

dakṣiṇā-homa (dh. [CH. § 191]) までの儀式 (p.dh.) を完了する。

戦車準備 (11.6; p. 72.8-73.5) {戦車を索いて来る (Taittiriya Saṃhitā. 1.7. 7.b-c), 馬をつなぐ (ibid. 7.d-f)}。

dh. を完了し, marutvatīya-graha (marut. [CH. § 193-197]) を完了する。灌頂 (11.7; 74.3-17)。馬の前処理 (11.7; 75.4-6) (TS. ibid. 8.o)。戦車に乗る (11.7; 75.6-10) {戦車に近づく (TS. ibid. 7.g), 車輪に唱え (ibid. 7.h), 戦車に祭主乗る (ibid. 8.a)}。Brahman 祭官 (Br.) が台に登る (11.7; 75.10-12), (TS. ibid. 8.b) (Br. は競争に際して sāman を詠唱する)。勝ち取りの歌 (11.7; 75.12-14) (TS. ibid. 11) (Adhvaryu 祭官 (Adh.) が祭主に唱えさせる)。出発行為 (11.7; 75.14-76.7) {鞭入れ (TS. ibid. 8.d-e), 馬への指示 (ibid. 8.f)}。

māhendra-graha (mg.) を汲み (mg.g. [CH. § 198]), stotra (mg.s.) を詠唱する。太鼓を打つ (11.8; 77.6-8) (TS. ibid. 8.c)。競争中祭文 [=を唱える] (11.8; 77.8-10) (TS. ibid. 8. g-l)。

śastra (mg.ś) を唱え, 献供 (mg.homa.=mg.h. [CH. § 201]) を行う。競争中献供 (11.8; 78.4-6) (TS. ibid. 8.m), 競争後処理 (11.8-10; 78.6-79.1) {戦車帰着時の献供 (TS. ibid. 8.n), 馬の後処理 (ibid. 8.p), 戦車解体 (ibid. 8.q), 太鼓解体 (ibid. 8.r), Br. 降りる}。祭柱の儀式 (11.11; 79.11-81.5) (TS. ibid. 9.a-h) {祭柱に祭主乗る, 祭柱上の行為, 祭柱から降りる}。

mg. bhakṣaṇa (mg.bh. [CH. § 201]) を行う。
他の ŚS において特に差異のみられる儀式は,

戦車への代理／補助者の乗り込み：祭主が降り, 代理として王子が乗り込む (Mān (ava) ŚS, Vār (āha) ŚS)。祭主の補助として Adh. が乗り込む (Āp (astamba) ŚS, Hir (anyakeśi) ŚS, Vaikh (ānasa) ŚS)。Adh. の弟子 (brahmacārin あるいは antevāsin) が乗り込む (KātyŚS)。Mān ŚS ではそのため, 戦車競争と祭柱の儀式とが同時に進行される。競争帰りの祭文：往路 (ibid. 7. f-i) のみならず, 帰路にも唱える (ibid. i-m) (ĀpŚS, HirŚS, VaikhŚS)

BaudhŚS を基に, Agの要素を軸にして, 各 ŚS の上述の儀式の一覧表を作成した ([] 内は競争中に戦車に乗っている人物である。一字下げの項目のは戦車競争に関連する儀式)。この一覧表から見てとれるのは, これらの儀式が, BaudhŚS, MānŚS においては Ag に複数の部分にわかれて展開されているのに対して, 成立のより新しい ĀpŚS, HirŚS, VaikhŚS, VārŚS, さらに KātyŚS では狭い範囲に集約して行われていくことである。

(テキスト箇所一覧 BaudhŚS. 11, MānŚS. 7.1, VārŚS, 3.1, ĀpŚS. 18. 1-7, HirŚS. 13.1-2, VaikhŚS. 17.7-18, KātyŚS. 14)

BaudhŚS	MānŚS	VārŚS	ĀpŚS, HirŚS	KātyŚS
[祭主] p.dh.	[王子] p.dh.	[王子] p.dh.	VaikhŚS [祭主+Adh.]	[祭主+ Adh.の弟子]
戦車準備 dh.	戦車準備 dh.	戦車準備 (dh.)	dh.	(dh.)
marut.	marut.	(marut.)	戦車準備 marut.	marut.
灌頂 馬の前処理 戦車に乗る Br. 台に登る 勝ち取りの歌 出発行為	Br. 台に登る 勝ち取りの歌 戦車に乗る 祭主降りる 代理乗る 出発行為 (競争中)		戦車に乗る 補助者乗る 太鼓を打つ Br. 台に登る 馬の前処理 出発行為 競争中祭文 勝ち取りの歌 競争帰り 競争後処理 (祭柱の儀式: Hir, Vaikh)	戦車準備 馬の前処理 Br. 台に登る 太鼓を打つ 戦車に乗る 補助者乗る 出発行為 競争中献供 競争中祭文 競争後処理 祭柱の儀式 灌頂 勝ち取りの歌
mg.g., mg.s.	mg.g., mg.s.	(mg.g) mg.s.	(mg.g) mg.s.	mg.g., mg.s.
太鼓を打つ 競争中祭文	祭柱に祭主登る 祭柱上の行為 (競争中) 競争後処理 太鼓を打つ Br. 降りる 祭柱から降りる 灌頂	Br. 台に登る 戦車に乗る 勝ち取りの歌 祭主降りる 代理乗る 出発行為 競争中祭文 競争後処理 太鼓を打つ 祭柱の儀式 灌頂	祭柱の儀式 灌頂	
mg.ś., mg.h.	mg.ś. (mg.h.)	mg.ś. (mg.h.)	(mg.ś.,) mg.h	(mg.ś.,) mg.h
競争中献供 競争後処理 祭柱の儀式 mg. bh.	(mg.bh.)	(mg.bh.)	(mg.bh.)	(mg.bh.)